



発刊にあたって

社団法人兵庫県臨床衛生検査技師会

会 長 向 井 正 彦

1995（平成7）年1月17日の阪神・淡路大震災から早や10年が経ちました。都市直下型の大地震で神戸市を中心とした近代都市の機能が根底から崩壊し、犠牲者6,433名という未曾有の大災害の記憶は今も忘れることはできません。自宅や勤務先の倒壊、また倒壊までいかなくてもライフラインの断絶など、被災者でもある私たちは必死で臨床検査業務の復興に取り組みました。また近隣の他府県および全国の技師会から多くの支援をいただき、それぞれの勤務先の復興、避難所の医療支援などを進めました。

しかし10年経過し復興が進むにつれて、少しずつ記憶が薄らぎつつあるのも事実です。当会では阪神・淡路大震災から10年の節目に当たり、改めてこの10年間にしてきたこと、できなかったこと、今後発生が危惧されている南海東南海地震への備えなど、について考えることとしました。

本記念誌は、平成17年2月5日に開催した「神戸からの発信・震災10周年市民フォーラム 命を測る臨床検査」の記録および、10年前に編纂した「阪神・淡路大震災の記録～医療支援活動報告」「震災対策マニュアル」を改めて見直し再構成して、後世に記録として残すこととしました。災害は忘れた頃にやってくる、と諺がありますが、私たち兵庫県臨床衛生検査技師会が、10年前および21世紀の今、どのように考え行動していたかを見ていただければ幸いです。

今回の事業に際しご支援いただきました「震災10年 神戸からの発信」事務局、ご後援いただきました兵庫県、神戸市、(社)兵庫県医師会、(社)兵庫県放射線技師会、(社)兵庫県看護協会、(社)兵庫県栄養士会、兵庫県臨床工学技士会に感謝いたします。